

32年ぶりの水準まで進んだ米ドル高・円安

日米金利差拡大に見合った動きであり、投機的な動きではない

2022年10月14日

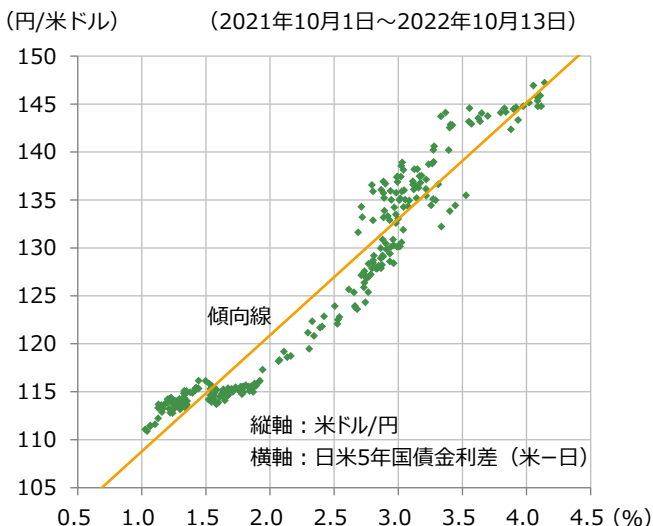
米金利の行方が米ドル円のカギ、他通貨に対する円安は鈍化の兆し

米ドル円は10月13日に1990年8月以来32年ぶりの水準となる147.67円まで上昇しました。9月の米消費者物価指数が市場予想を上回り、インフレ抑制へFRB（米連邦準備制度理事会）の利上げ姿勢が強まるとの見方から米金利が上昇したことが、米ドル高に働いたためです。為替について、鈴木財務相は「投機による過度な変動は容認できない」、「過度な変動には適切な対応をとる」とする一方、黒田日銀総裁は「いま金利を上げるとは適切でない」と金融緩和継続姿勢を示しています。市場では、円買い為替介入への警戒感はあるものの、日米金融政策の相違による円売り・米ドル買いを続けやすい状況にあります。

最近の米ドル円上昇は、日米金利差拡大に見合った動きであり、投機的な動きとは言い難いです。また、世界的に金利上昇を受けてリスクオフの動きが広がる中で、クロス円（米ドル以外の通貨の対円レート）での円安圧力は鈍化しつつあります。ただ、米金利上昇とリスクオフを背景に米ドル高が進んでいるために、米ドル円の上昇が続いているのです。日本の為替介入で米ドル高・円安を一変させることは困難であり、米金利上昇による米ドル高が続くか否かが米ドル円の行方を左右するでしょう。

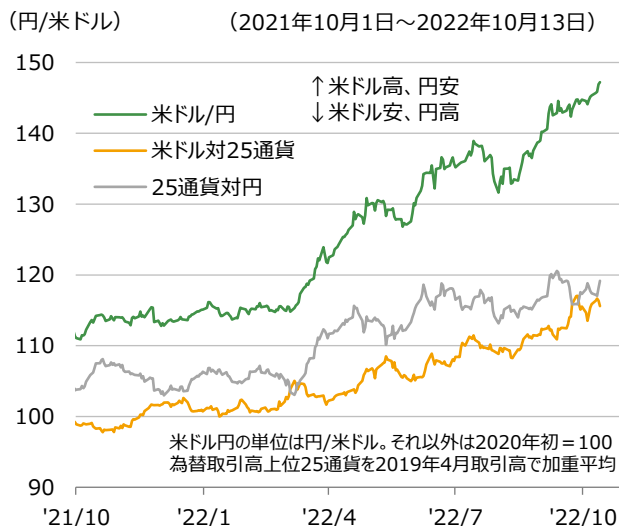
米国では、利上げ観測で短めの金利が上昇しても、景気悪化懸念で長めの金利は上昇が鈍くなる傾向にあり、今後は金利上昇による米ドル高圧力が弱まる可能性があります。日米5年国債金利差は4.1%台まで拡大してきましたが、これが4.4%を超えないようなら米ドル円は150円を超えにくいと考えられます。

日米5年国債金利差と米ドル円



(出所) リフィニティブより大和アセット作成

米ドル、円、他通貨の為替



(出所) BIS、リフィニティブより大和アセット作成

当資料のお取扱いにおけるご注意

- 当資料は投資判断の参考となる情報提供を目的として大和アセットマネジメント株式会社が作成したものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資信託のお申込みにあたっては、販売会社よりお渡しする「投資信託説明書(交付目論見書)」の内容を必ずご確認ください。
- 当資料は信頼できると考えられる情報源から作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。運用実績などの記載内容は過去の実績であり、将来の成果を示唆・保証するものではありません。記載内容は資料作成時点のものであり、予告なく変更されることがあります。また、記載する指数・統計資料等の知的所有権、その他一切の権利はその発行者および許諾者に帰属します。
- 当資料の中で個別企業名が記載されている場合、それらはあくまでも参考のために掲載したものであり、各企業の推奨を目的とするものではありません。また、ファンドに今後組み入れることを、示唆・保証するものではありません。

大和アセットマネジメント